

CN

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-040845

(43)Date of publication of application : 15.02.1994

(51)Int.Cl.

A61K 7/00
A61K 7/02
A61K 7/021

(21)Application number : 03-311682

(71)Applicant : SHISEIDO CO LTD

(22)Date of filing : 30.10.1991

(72)Inventor : SHIMATANI YOICHI
TOYODA HIDEKAZU

(54) SOLID POWDER COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain a solid powder cosmetic keeping skin moist, young and fresh, having no greasiness and excellent make-up durability.

CONSTITUTION: A solid powder cosmetic is blended with 0.001-50wt.%, preferably 0.1-30wt.% trehalose as a moisture riser. The cosmetic can be optionally mixed with raw materials such as various kinds of oils, surfactant, powder, water-soluble polymer, antiseptic, chemical, coloring matter, perfume, humectant, water, etc., ordinarily added to cosmetics. The solid powder cosmetic has excellent stability with temperature and will not cause neither change of smell nor change of color even by allowing to stand under a high-temperature condition for many hours.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 10.07.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3193423

[Date of registration] 25.05.2001

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C): 1998,2003 Japan Patent Office

CN

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-40845

(43) 公開日 平成6年(1994)2月15日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/00	F	9164-4C		
	L	9164-4C		
7/02	Z	9164-4C		
7/021		9164-4C		

審査請求 未請求 請求項の数1(全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平3-311682	(71) 出願人	000001959 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号
(22) 出願日	平成3年(1991)10月30日	(72) 発明者	島谷 庸一 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内
		(72) 発明者	豊田 英一 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内

(54) 【発明の名称】 固型粉末化粧料

(57) 【要約】

【目的】 皮膚をしっとり和水々しく保ち、べたつかない固型粉末化粧料を提供する。

【構成】 トレハロースを含有する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 トレハロースを含有することを特徴とする固型粉末化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、アイシャドー、ほほ紅、白粉などの固型粉末化粧料に関する。さらに詳しくは、トレハロースを含有して皮膚をしっとり和水々しく保ち、べたつかない固型粉末化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のメーキャップ化粧料は塗布後、粉末が皮膚を吸収するため、皮膚がかさつくという欠点を有していた。このような問題点を解決するために、多量の油分を配合するという試みや、グリセリン、キシリトール、ソルビトール、ポリエチレングリコール等の各種ポリオールやピロリドンカルボン酸等の各種アミノ酸類などの保湿剤及び、高級アルコール、高級脂肪酸、エステル油、ラノリン等のエモリエント剤等を配合するという試みがなされてきた。しかし、これらを使用するとい

【0003】

ずれもべたつき感が強く使用感および化粧持ちの著しく劣ったものとなり満足いくものが得られなかった。

【発明が解決しようとする課題】 本発明者らは、こうした事情に鑑み、べたつかずに、適度の水分を保持する優れたモイスチャー効果を有し、さらに化粧持ちに優れた物質を鋭意探索した結果、トレハロースをモイスチャーライザーとして固型粉末化粧料に使用すれば、驚くべきことに保湿効果が高く、べたつかず、さらには化粧持ちに優れたことを見出し本発明を完成するに至った。

【0004】

【課題を解決するための手段】 すなわち、本発明は、トレハロースを含有することを特徴とする固型粉末化粧料に関する。以下、本発明の構成について詳述する。

【0005】 本発明で用いられるトレハロースは、D-グルコースが1, 1結合した形の非還元性2糖の一種であり、結合様式 α 、 α -, α -, β -, β -, β -のいずれでも良い。トレハロースの含有量は本発明の固型粉末化粧料全量中0.001~50重量%、好ましくは0.1~30重量%である。

【0006】 本発明の固型粉末化粧料は、皮膚に使用され、その保護及び化粧を目的とする全てを含み、必要に応じて各種オイル、界面活性剤、粉末、水溶性高分子、防腐剤、薬剤、色素、香料、保湿剤、水等の一般に化粧品に配合される原料を配合することができる。

【0007】 例えば、オイルとして、流動パラフィン、ワセリン、パラフィンワックス、マイクロクリスタリンワックス、セレスシン、オゾケライト、スクワラン、みつろう、カルナバロウ、オリーブ油、ラノリン、高級アルコール、脂肪酸、高級アルコールと脂肪酸の合成エステル油、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシ

ロキサン、ジメチルシクロポリシロキサン、ジアリールポリシロキサン、脂肪酸変性ポリシロキサン、高級アルコール変性ポリシロキサン、アミノ変性ポリシロキサン等のシリコン油、シリコン樹脂、シリコンゴム等の化粧品に汎用される油分が用いられる。

【0008】 界面活性剤としては、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン樹脂酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル等の非イオン界面活性剤、ポリオキシエチレン変性オルガノポリシロキサン等のシリコン系界面活性剤、ステアリン酸ナトリウム、パルミチン酸トリエタノールアミン等の脂肪酸石鹸で代表されるアニオン界面活性剤、及び、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤等の化粧品に汎用される界面活性剤が用いられる。

【0009】 水溶性高分子としては、カルボキシメチルセルロース、メチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、トラガントゴム、カラギーナン、ローカストビーンガム、デキストリン、デキストリン脂肪酸エステル、カルボキシビニルポリマー、キサンタンガム、ゼラチン、アルギン酸ナトリウム、アラビアゴム、ヒアルロン酸ナトリウム等の化粧品に汎用される水溶性高分子が用いられる。

【0010】 保湿剤としては、ソルビトール、キシリトール、グリセリン、マルチトール、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、1, 4-ブチレングリコール、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム、ポリエチレングリコール等の化粧品に汎用される保湿剤が用いられる。

【0011】 防腐剤としては、パラオキシ安息香酸アルキルエステル、安息香酸ナトリウム、ソルビン酸カリウム等の化粧品に汎用される防腐剤が用いられ、薬剤としては、ビタミン類、生薬、消炎剤、殺菌剤等の化粧品に汎用される薬剤が用いられる。

【0012】 粉末としては、タルク、カオリン、セリサイト、白雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、バーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、珪ソウ土、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、 α -酸化鉄、水和酸化鉄、シリカ、ヒドロキシアパタイト等の無機粉末、ナイロンパウダー、ポリエチレンパウダー、ベンゾグアナミンパウダー、四弗化エチレンパウダー、ジスチレンベンゼンピンホールポリマーパウダー、微結晶性セルロース等の有機粉体、酸化チタン、酸化亜鉛等の無機白色顔料、酸化鉄（ベンガラ）、チタン酸鉄等の無機赤色系

3

顔料、黄酸化鉄、黄土等の無機黄色系顔料、マンゴパイオレット、コバルトパイオレット等の無機紫色系顔料、酸化クロム、水酸化クロム、コバルトチタン酸等の無機緑色顔料、群青、紺青等の無機青色系顔料、酸化チタンコーテッド雲母、酸化チタンコーテッドオキシ塩化ビスマス、オキシ塩化ビスマス、酸化チタンコーテッドタルク、魚鱗箔、着色酸化チタンコーテッド雲母等のパール顔料、アルミニウムパウダー、銅パウダー等の金属粉末顔料およびそれらの疎水化処理物等が用いられる。

【0013】色素としては、赤色104号、黄色4号、黄色5号、緑色3号、青色1号、青色2号、赤色202号、赤色226号、赤色227号、赤色230号、橙色206号、橙色207号、黄色202号、緑色201号、緑色204号、青色201号、緑色205号等のタ*

実施例1 アイシャドー

(1) タルク	6.0
(2) トレハロース	15.0
(3) 白雲母	60.0
(4) 群青	8.0
(5) 黄色酸化鉄	3.0
(6) 黒色酸化鉄	1.0
(7) スクワラン	4.0
(8) セチル2-エチルヘキサノエート	1.9
(9) ソルビタンセスキオレート	0.8
(10) 防腐剤	0.1
(11) 香料	0.2

(製法) (1) (2) (3) (4) (5) と (6) をヘンシェルミキサーで混合し、これに (7) (8) (9) (10) と (11) を加熱溶解混合したものを吹き付

10 【0015】

【実施例】次に実施例をあげて本発明を更に詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量%である。

【0016】

け、混合した後粉砕し、中皿に成型しアイシャドーを得た。

30 【0017】

(比較例1) アイシャドー

(1) タルク	21.0
(2) 白雲母	60.0
(3) 群青	8.0
(4) 黄色酸化鉄	3.0
(5) 黒色酸化鉄	1.0
(6) スクワラン	4.0
(7) セチル2-エチルヘキサノエート	1.9
(8) ソルビタンセスキオレート	0.8
(9) 防腐剤	0.1
(10) 香料	0.2

【0018】

実施例2 ブラッシャー

(1) タルク	12.6
(2) 絹雲母	74.9
(3) トレハロース	0.1
(4) 群青	0.1
(5) 黄色酸化鉄	0.4
(6) 赤色酸化鉄	0.4
(7) 赤色226号	0.4

5

6

(8) チタンマイカ	3.0
(9) スクワラン	3.0
(10) 2-エチルヘキシルバルミテート	5.0
(11) 防腐剤	0.3
(12) 香料	0.1

(製法) (1) (2) (3) (4) (5) (6) と *吹き付け、混合した後粉碎し、さらに (8) を加え混合
(7) をヘンシェルミキサーで混合し、これに (9) した後、中皿に成型しブラッシャーを得た。

(10) (11) と (12) を加熱溶解混合したものを * 【0019】 (比較例2)

(1) タルク	12.7
(2) 絹雲母	74.9
(3) 群青	0.1
(4) 黄色酸化鉄	0.1
(5) 赤色酸化鉄	0.4
(6) 赤色226号	0.4
(7) チタンマイカ	3.0
(8) スクワラン	3.0
(9) 2-エチルヘキシルバルミテート	5.0
(10) 防腐剤	0.3
(11) 香料	0.1

を実施例2と同様に作成した。

※20※ 【0020】

実施例3 パウダーファンデーション

(1) 酸化チタン	2.0
(2) タルク	10.0
(3) 白雲母	3.0
(4) 絹雲母	55.0
(5) トレハロース	5.0
(6) ナイロンパウダー	12.0
(7) 赤色酸化鉄	0.5
(8) 黄色酸化鉄	1.0
(9) 黒色酸化鉄	0.1
(10) シリコンオイル	1.0
(11) 2-エチルヘキシルバルミテート	9.0
(12) ソルビタンセスキオレート	1.0
(13) 防腐剤	0.3
(14) 香料	0.1

(製法) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) 熱溶解混合したものを添加混合後粉碎し、これを中皿に
(8) と (9) をヘンシェルミキサーで混合し、これに 成型しパウダーファンデーションを得た。

(10) (11) (12) (13) (5) (14) を加 【0021】 (比較例3)

(1) 酸化チタン	2.0
(2) タルク	15.0
(3) 白雲母	3.0
(4) 絹雲母	55.0
(5) ナイロンパウダー	12.0
(6) 赤色酸化鉄	0.5
(7) 黄色酸化鉄	1.0
(8) 黒色酸化鉄	0.1
(9) シリコンオイル	1.0
(10) 2-エチルヘキシルバルミテート	9.0
(11) ソルビタンセスキオレート	1.0
(12) 防腐剤	0.3

7
(13) 香料

8
0.1

【0022】各実施例、比較例を美容技術者20名に使用させ、その評価を行った。結果を表1に示す。表1より、本発明に係る固型粉末化粧料は、皮膚をしっとり水々しく仕上げ、べたつかず、化粧持ちに優れていることがわかる。

【0023】尚、表中数字は、ABCDE評価の人数を示す。

評価A；かなり優れている
評価B；優れている
評価C；普通
評価D；劣っている
評価E；かなり劣っている

【0024】

【表1】

項 目	し っ と り き					べ た つ き					化 粧 持 ち				
評 価	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
実施例1	10	9	1			10	10				10	10			
比較例1		3	8	8	1		5	10	5				2	18	
実施例2	16	3	1			8	10	2			12	8			
比較例2			10	2	8			3	5	12			5	9	6
実施例3	19	1				14	6				10	8	2		
比較例3			10	7	3			1	18	1				17	3